

---

# 彼女が初めて発した言葉

貴平郁歌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼女が初めて発した言葉

### 【コード】

N0269F

### 【作者名】

貴平郁歌

### 【あらすじ】

普通の高校生、桜沢守と小池まどかのお話。

## 第一話・出会い(前書き)

恋愛ものにするつもりですので、苦手な方は  
backおねがいます。



様子を見てこいということになったのである。

なんでも小池サンは体が弱く音が聞こえない、喋れないという障害者であるらしい。

だが絶世の美少女らしい。いや、俺も会ったこともないのでよくわからんが……。

なんてことを考えているうちに、担任教師から渡された葉書きサイズのメモ用紙

の地図の『目的地 小池邸』と書いてある場所に到達。

意外と俺ん家から近いんだな。

とんとん。

「どうしたのかな、ボク もしかして、マイゴ?」

は?



その謎の女は俺にスリッパを出し、「どうぞ」といってさらにおくへ案内してくれた。

それにしても、小池邸は外から見たときより、かなり広く感じた。中は白と黒で統一されていて、清潔そのもの、だ。

「座っててね。麦茶でいい？」

「あ、はい……。おねがいします。」

謎の女は、コップに麦茶をいれて、俺に「ちょっと待ってて。円呼まどかんでくるから」

というと、小走りで言ってしまった。

いやー、こつこつときはどうすればいいんだろうね。

なんて考えた末に、これから現れる（予定の）小池まどかの外見の予想をしていると、

「おまたせ」

と言い、あの謎の女が入ってきた。

小池サンを呼びに行ったのだから、もちろん後ろに小池サン（らしき美少女）もいた。

予想以上の美少女だった。

黄金色に近い茶髪（たぶん地毛）と、肌の色はもう白い、を通り越して真っ白だし、

日焼けの後も……一つも見当たらない。瞳は翡翠の碧色をしていて、その……

なんていうか……まあ、めちゃくちゃな美少女だった。

それに、黒いノースリーブのワンピースが肌の色と髪の色に映える。

いや、謎の女も綺麗だった。（髪の色は黒だったが、肌は白くて、紅い瞳をしている）

なんて考えていると、その小池サンと目が合った。

するとカノジヨはにこっと笑って、俺とお向かいのイスに腰掛けた。

とりあえず、俺の真正面に小池サン、俺の隣に謎の女が座った。

「とりあえず、自己紹介が先よね

私は、小池満こいけみつる。円の姉まどかよ。満タンの『満』って書いて、みつるねみちるじゃないから、そこを間違えないように。年は23、誕生日は3月2日でO型。趣味はインターネットとスポーツよ。よろしく。

さあさあ、次はそのボクよ」

一応これからは、『満さん』だな。年上だし。

「俺は、桜沢守さくらざわまもる

年は16で青葉学園の高等部1年B組。

誕生日は5月9日。」

「守くんね、よろしくう。」

「はあ・・・」

なんていうやり取り(?)を繰り返していると、小池サンが俺に紙を渡してきた。

その紙には、こう書いてあった。

【初めまして。』円』って書いて、まどかつてよみます。

まどかつて呼んでくれていいですから。趣味は読書とお昼ねです。

誕生日は4月18日。

担任の先生からお聞きでしょうが、耳がきこえないので、さっき言っただけの事、

この紙にかいてほしいのですが。】

俺がこの紙を読み終わった事を確認したまどかは、まどかが持っていた白紙と鉛筆を

俺に差し出してきた。

「書いてあげて。あの子、あれでもあなたが来てくれて嬉しいのよ」。

と、言い終わると、満さんはまどかと手話で話し始めた。

さっきまでユルかった姉・満さんが真剣な表情になったので（それでも語尾に『が』が

ついていたが）さっき自己紹介をした内容を偽りなく書いてやった。

その紙を読むと、まどかは俺がいままでに見たことのあるまどかの笑った顔のなかでも

多分最強の笑顔で手話で何かをいつてくれた。

「ありがとうございます。大切にします。　だつて。」

俺が手話という道の世界の会話方法が1ミリメートルも分からないことに気がついた

満さんが、通訳をしてくれた。

なんていうか………こーゆーのつて、心が温まるよつな気がする。

なんて気がしたのは、さっきのまどかの最強笑顔（命名）のせいだろうか。

## 第一話・出会い（後書き）

私もこういった話は初めてなので、アドバイスおねがいます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0269f/>

---

彼女が初めて発した言葉

2011年2月3日06時32分発行